

# 大雪山系縦走報告

1 日目 (8 月 27 日(木))

M3 只左一也

2009 年 8 月 27 日(木)ー9 月 6 日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1 日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡  
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→  
黒岳→黒岳石室 (小屋泊)

2 日目：荒天のため沈黙 (小屋泊)

3 日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳  
→北海岳→白雲岳避難小屋 (小屋泊)

4 日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→  
沼ノ原大沼 (幕営)

5 日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→  
ヒサゴ沼避難小屋 (小屋泊)

6 日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→  
南沼キャンプ場 (幕営)

7 日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→  
美瑛富士避難小屋 (小屋泊)

8 日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→  
十勝岳→上ホロ避難小屋 (小屋泊)

9 日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→  
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼  
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→  
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→  
(バス)→富良野駅→(電車)→  
上富良野駅→日の出キャンプ場  
(幕営)

10 日目：十勝岳温泉往復 (幕営)

11 日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

|      |           |                                  |
|------|-----------|----------------------------------|
| 羽田空港 |           | 07:50 発 (飛行機)                    |
| 旭川空港 | 09:30 着   | 09:40 発 (バス)                     |
| 旭川駅  | 10:15 着   | 10:45 発 (バス)                     |
| 層雲峡  | 12:35 着   | 13:20 発<br>(ロープウェイ)              |
| 五合目  | 13:30 着   | 14:20 発 (リフト)                    |
| 七合目  | 14:40 着   | 14:50 発<br>(途中、天気図をつけるため 30 分休憩) |
| 黒岳   | 16:50 着/発 |                                  |
| 黒岳石室 | 17:15 着   | (小屋泊)                            |

(歩行時間：約 2 時間半)

大雪の縦走は長年のあこがれであったが、昨年の夏に涸沢で初めて一緒になった S61 卒の吉筋先生から先生がホームページに掲載されたトムラウシのナキウサギの写真をを見せていただいて、どうしてもナキウサギを見たくなり、「来年の夏は絶対に大雪トムラウシに行きたい！」と思ったのが、今回の縦走を思い立った直接のきっかけである。(吉筋先生のナキウサギのページをご覧ください。本当にかわいいです。)

<http://www.h3.dion.ne.jp/~suji/index.html>

また、大雪に行った人たちから、「大雪はスケールがデカイよ！北アルプスの比ではないよ！」などと話すのを聞いて、どうせ行くなら大雪のスケールのでかさを存分に味わいたい、と、黒岳～旭岳～トムラウシ～十勝岳～富良野岳～原始ヶ原と、大雪山系を北の端から南の端まで全て縦走する計画を立てた。

広大なお花畑と紅葉の美しさが日本一と言われる大雪山。お花畑には遅く紅葉には早いという中途半端な時期ではあるが、M3 大橋が 8 月末～9 月初めならいっしょに行けるということで、2 か月前の 6 月末に旭川～羽田の格安航空券 (行きは 12500 円、帰りは 12800 円) を押さえた。1 週間以上の縦走で天気がどうなるか分からないし、縦走路から少し離れた沼ノ原や原始ヶ原にも行きたかったので、8 月 27 日出発、9 月 6 日帰京と、日数はたっぷり取った。

27日は、たっぷりの食糧を担いで、羽田空港に早朝6時半に集合。平日の早朝なのに旅行客で混雑している。北海道行きの飛行機はほとんど満席のようだった。

9時半に旭川空港に到着。飛行機には手荷物でも預けてもキャンプ用のガスボンベは持ち込めないのが、北海道で調達しなければならないが、飛行機で北海道に登山に行く人たちのために、旭川空港の総合案内所でしっかりとガスカートリッジを売っている（EPIは1個460円）。カートリッジを10個購入して、旭川駅行きのバスに乗り込む。午後から天気が崩れるという予報だったが、バスの中から大雪山が見えて期待も高まる。

旭川駅で層雲峡行きのバスに乗り換えたが、乗客は私たち以外に地元の人が1人だけと、がらがらだった。



層雲峡行きのバスはがらがら。

2時間ほどバスに揺られ、終点の層雲峡で降りたが、ここもがらがら。バス停前のラーメン屋に入ったが、今年は特に客さんが少ないという。

ロープウェイやリフトを使って縦走するのは好きではないが、ロープウェイ脇の登山道は特に魅力もないので、今回は黒岳の7合目まで楽をすることにした。歩くと2時間半の登りのところ、ロープウェイは10分で五合目駅に着いてしまった。ここでパッキングをして、リフト乗り場に向かう。リフトの下は、8月終わりというのに結構高山植物が咲いている。青や黄色の花が多い。7合目でリフトを降りると、シマリスがちょろちょろして、それを見た小さな女の子がはしゃいでいた。



バスの中から大雪山が見えて、期待に胸が膨らむ。



右端のピークが、北海道最高峰の旭岳(2290m)。



層雲峡ロープウェイ。



トリカブト。青い花が多い。



ロープウェイからの眺め。



五合目でリフトに乗り換える。



ロープウェイ五合目駅。観光客がちらほら。



リフトから下を見下ろすと、8月末だが、まだ高山植物が結構咲いている。



七合目リフト終点駅のシマリス。シマリスはあまり人を怖がらない。



黒岳に登る人はここで登山計画を記入する。

リフト駅の前にある事務所で登山計画を記入し、目的地の黒岳石室まで雨が降らないことを祈りつつ出発。ニセイカウシュッペ山など北大雪の山々はすでに稜線が雲に覆われている。

縦走初日で荷物が重く、またロープウェイとリフトを使ったが、それでも黒岳山頂まで標高差 500mの急坂で結構きつい。登って行くうちに雲が谷から上がってきて、ガスがかかり始めた。



黒岳への登り口。



北大雪のニセイカウシュッペ山などは稜線が雲に覆われている。



山の斜面は深い森に覆われている。



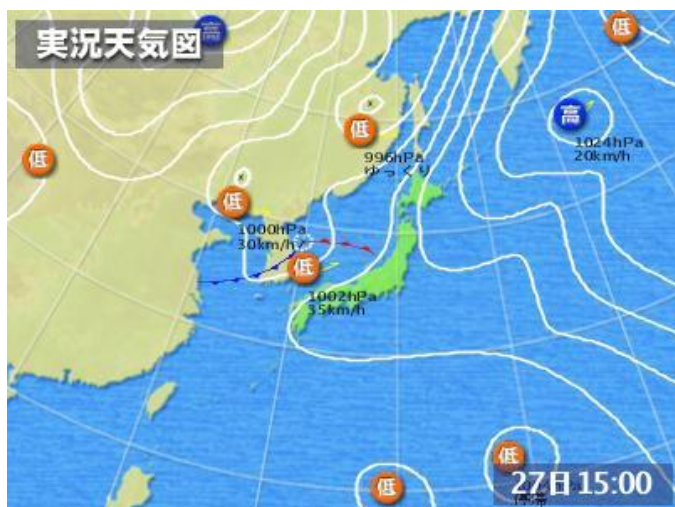
黒岳までは登山客が多いため、よく整備されている。



雲がどんどん厚くなってきた。



翌日の天気気がかりで、4時になったらラジオをつけ、登山道に腰を下ろして天気図をつけた。発達した低気圧が北海道をまともに通過するので、夜から荒れそうだった。



石室では小屋ではなくテントの予定だったが、小屋泊まりに変更して、また翌日は1日沈澱することを考えながら、再び登り続けた。夕方5時前、ようやく黒岳山頂に到着。ガスで全く展望はなかったのがっかりだった。

黒岳からは緩やかな下りとなるが、ウラシマツツジなどがところどころきれいに色づいている。庭園のような景色の中を進み、石室に到着。強風土砂降りになるのが分かっていてテントで泊まる気持ちは完全に失せていたので、小屋に泊まる手続きをした。この日の宿泊客は私たちだけだった。

この石室は、なんと大正12年に建てられた小屋で、名前の通り壁は石でできている。中は落書きが多かったが、戦前のものもあった。大雪山系で有人の小屋は、この黒岳石室（1泊2000円）と、白雲岳避難小屋（1泊1000円）だけ。

小屋の人によれば、天気は夜から崩れて、翌日まで大荒れになるという。ラジオの天気予報でも同じことを言っていたので、翌日は石室に沈澱することに決めた。



またシマリスに遭遇、縦走中、シマリスは頻繁に見かけた。



黒岳山頂。ガスで展望がないのは残念。



山頂から石室までは緩やかな道。



ウラシマツツジが色づいている。まるで庭園のような景色。



石室の前の分岐。

## 2日目（8月28日(金)）

### 悪天候のため沈滞（黒岳石室泊）

この日は思ったほど天候が荒れなかったが、それでも時々ザーザー降りとなった。地形の影響のためか、それほど風はなかったが、稜線はきっと荒れていたことだろう。小屋で1日のんびり過ごした。

夕方4時の気象情報では、低気圧が北海道を通過して翌日は回復しそうなので、翌朝の様子次第で出発することにした。

小屋の人の話だと、今年は大雪山全体でヒグマの目撃情報が非常に多いとのことである。例年は見られないようなところでもヒグマの目撃情報があり、ヒグマと遭遇して引き返して来たなどという話もいくつかあり、テントは勧めない、と言う。一緒に話を聞いていた大橋の顔が引きつっていた。沼ノ原や双子池でテントを張る予定だった私たちはかなり不安になり、落ち着かない気持ちになってしまった・・・。



時々ガスが消えて少し遠くまで見える。右は桂月岳、左は凌雲岳。



黒岳石室に到着。



黒岳石室は、大正12年に建てられた、石造りの小屋。



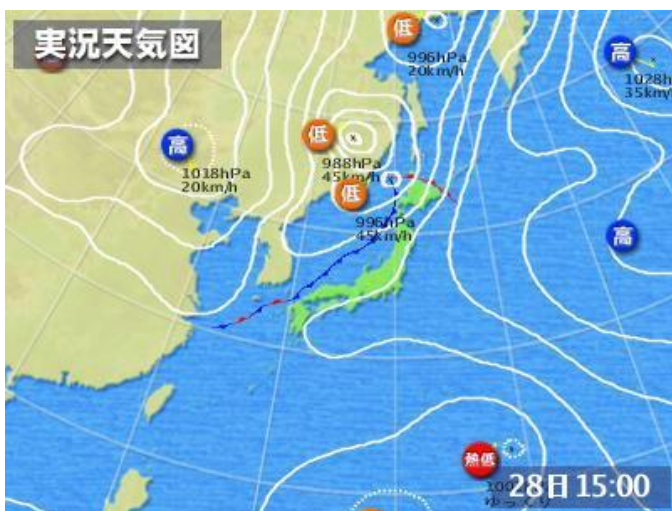
この日の宿泊客は私たちだけ。



凌雲岳。この山に登る登山道はない。ヒグマが何頭か住み着いていて、時々観察できるとのこと。



天気図をつける。



低気圧が北海道を抜けてくれば、天候が回復しそうなのだが・・・